



「いたばしさんぽ」で、知らなかった板橋区のSDGsを探しに行こう!

「いたばしさんぽ」は、区内の素敵な場所をめぐるながら、SDGsとまちのつながりについて楽しく学べる、板橋区オリジナルのボードゲームです。新しい視点やちょっとした気づきが見つかるはず。あなたも「いたばしさんぽ」に出かけてみませんか?



SDGsの視点で、まちを見つめなおしてみよう

私たちの暮らしの中には、SDGsにつながるものがたくさん隠れています。例えば、給食を食べ残さないようにすれば、目標12「つくる責任つかう責任」を達成する力になります。それだけでなく、ごみの量が減って環境に与える影響が少なくなれば、目標11「住み続けられるまちづくりを」を達成する力にもなります。「いたばしさんぽ」を楽しみながら、私たちの生活がどのSDGsの目標とつながっていて、どのように目標がお互いにつながっているか考えてみてください。

◀コスモさん(高木 超さん) 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任助教

コスモさんは、SDGsを自分ごととして考え、学び、目標をもって行動するきっかけをつくっていくことが専門で、本冊子のSDGsの監修*を担当。SDGsの視点でまちを見る大切さを広げています。

*コスモさんが開発したSDGsと身近な暮らしの接点を見つけるツール「MIJI-SUS」を採用

「いたばしさんぽ」ができるまでの道のり
「板橋らしさ」にあふれたゲームをつくるため、デザイナー、絵本作家、小学校の先生など、様々な人とアイデアを出しあい、一緒に作りました。

キックオフ! どんなものをつくらう?



区立緑小学校 5年生のみんなからアイデアも!



板橋区の「好き」なところやSDGsの取組を区民のみなさんから集め、ゲームのイラストや言葉にしました。



制作中のボードゲームを、みんなで試しに遊んでみました。

「いたばしさんぽ」完成!



区内の小・中学校の中には、授業で活用する学校もあるよ!

「いたばしさんぽ」と「絵本のまち」のつながり

板橋区は、絵本が生まれ、絵本にしたいし、絵本でつながるまち。そんな「絵本のまち板橋」として、「いたばしさんぽ」は板橋の絵本文化を築き上げてきた方々と一緒に作りました。「いたばしさんぽ」を通じて、板橋ならではの絵本の世界に踏み入れて、様々な視点やまちの場所を探してみてください。



絵本と絵本作家が生まれ続ける 絵本のまち、板橋。

「いたばしさんぽ」のイラストを描いた三浦太郎さんと、板橋区立美術館の2020年「ポロニーア国際絵本原画展」などのグラフィックを担当してきたオオノ・マユミさんに、絵本や「絵本のまち」への想いを聴きました。



▲聞き手:板橋区立美術館 館長 松岡 希代子さん

「ポロニーア国際絵本原画展」は、イタリア・ポロニーアで毎年開催されている絵本原画コンクールの入選作品による展覧会。板橋区立美術館では、1981年からポロニーア展を開催。

▶2020ポロニーア国際絵本原画展



▲三浦さん、オオノさんの絵本

▼オオノさんが参加した2016年夏のアトリエ

板橋区立美術館とポロニーア展での出会いやつながりが絵本文化を生む
三浦:自由に表現でき、長く手に取ってもらえる「何か」を探していて、「絵本」にたどり着いたんです。イタビ(板橋区立美術館の略称)でポロニーア展を見て「これなら自分にもできるぞ」ってすぐに感じました。オオノ:私はイラストレーターとして子どもに関わりたと思って絵本づくりをめざすことに。イタビの「夏のアトリエ」で三浦さんをはじめ、様々な専門家に教えていただき、ポロニーア展にも初挑戦で入選をいただきました。

国や言葉を超えて、絵本を通じて、社会とつながる

三浦:海外の絵本をつくるときに言葉や外国語で考えるのは難しい。でも文字がなくても見たときにクスクスと面白いとか、不思議な絵だなんて思ってもらえれば、言語で語らなくても伝わるんじゃないかと思うんですよ。オオノ:私も作家としての1作目は、ポロニーア展での出会いで形になったイタリア語の絵本なんです。赤いちょうちが好きな場所に

お出かけして、おうちに帰るといって本当にシンプルな絵本なんですけど、身近に感じてもらえるんじゃないかと思って思っています。三浦:逆に日本語の本を出した時には、読者の反応を聞きましたね。子どもが産まれたころに描いた「くつついた」は、「子育てに疲れても、笑ったら疲れもみんな吹っ飛ばよ」という思いに共感したお母さんやお父さんが、たくさん読者ハガキを送ってきてくれて。ちょうどこのころ、お父さんも子育てに参加するという社会的な動きがあって、絵本を通して社会とつながっているんだと感じましたね。

「絵本のまち板橋」だからこそつながる、絵本とまちとSDGs

三浦:ここ最近では、「絵本」の取組がイタビから外に出て板橋に広がっているのかなと感じますね。オオノ:すごく楽しいなと思ったのがポロニーア展と合わせて市民が企画する関連イベント「ポロニーア絵本さんぽ」です。地域の方々もふらりと立ち寄られて、「こういうイベントもやってみよう」と楽しんでくださって。[「いたばしさんぽ」の絵

「絵本のまち板橋」らしい取組のように感じました。三浦:ごみを拾うとか、物を大事に使うとかって、人に言われると義務的になるけど、絵本を読んだり、ゲームで遊んだりする中で、大事なことや優しい気持ちを感じて、心の中にSDGsのタネみたいなものが残る。そこで初めて物を大事にしよう、人に優しくしようって思いが芽生えて、自分としての行動に移せんじゃないかな。「いたばしさんぽ」の絵

を通じて、より盛り上がり楽しんでもらいたいって思います。



ポロニーア絵本さんぽ

板橋には、絵本とつながる場所ときっかけがたくさん!

板橋区立中央図書館といたばしポロニーア絵本館

ゆったりと靴を脱いで絵本を読める「えほんの森」、約100か国の絵本が読める「世界を知るコーナー」など、絵本を読んで、聴いて、触れる体験が盛りだくさん!区立図書館ではボランティアによる「絵本の読み聞かせ」も行っています。

板橋区立美術館

「イタリア・ポロニーア国際絵本原画展」や、絵本作家を目指すイラストレーター向けのワークショップ「夏のアトリエ」、ファミリー向けの「こどもアトリエ」などを開催。アーティストも、そうじゃない人も、「みんな」が楽しめる美術館です。

板橋区民まつり「絵本のまちひろば」

毎年10月に行われる板橋区民まつり。その中で開催されている「絵本のまちひろば」では、絵本にまつわる人やモノが大集合!絵本やアートに触れられる様々な体験ができます。

「絵本のまち板橋」公式Instagram

板橋の「絵本」に関する情報を発信しています。ぜひのぞいてみてください。



世界にはこんな絵本も

「さわる絵本」って知ってる?あなたが知らない絵本の可能性はまだあるかも!



10 読者の年齢層を問わず
「Città del libro illustrato」
全然わからないって、
こう感じる。
*の扉が何という扉か
が書かれています

「いたばしさんぽ」一言コラム
「Città del libro illustrato」は、イタリア語で「絵本のまち」という意味。日本語がわからない人にとって、日本語はどのように見えているんだろう?

板橋への思いと印刷製本の「つながり」から生まれた

子育てに悩むママたちに届ける絵本づくり

子育てママを応援する絵本「はぐれこもりねぐらでひとり」。ひとりのママのアイデアが共感を呼び、多くの支援を集めました。区内印刷会社の協力のもと、「板橋産の絵本」が完成しました。



企画した板谷春花さん(右) 恵友印刷 萬上平さん(左)



▲小さなコウモリが新しい出会いを通して、心を通わせるまでを描いた物語

板橋で応援してくれる人と出会い、絵本づくりの一步を踏み出せた

板谷:子育ての体験を絵本にしたいとずっと考えていて。子育てママを応援する板橋の会社「ママ・スマイル」を通じて同じ悩みを持つ人や応援してくれる人に出会い、クラウドファンディングで絵本をつくってみたいと思えました。アイデアを共有すると、多くの人に共感をいただき、目標金額を達成できました。萬上:私たちも、地域に密着した絵本づくりにもっと関わりたいと考えていました。SDGs/ESG

本をつくってみたいと思えました。アイデアを共有すると、多くの人に共感をいただき、目標金額を達成できました。萬上:私たちも、地域に密着した絵本づくりにもっと関わりたいと考えていました。SDGs/ESG

経営推進支援事業でママ・スマイルさんと、そして板谷さんの取組とつながることができました。



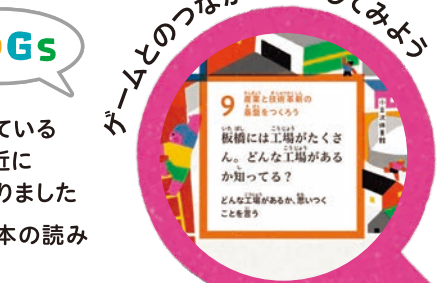
▶様々な種類の印刷機を工場で見せていただきました。

SDGsとのつながり解説

性別にとらわれず、一人ひとりが自分の仕事や実現したいことを自分の意思で決定できるには、様々な人の応援が支えになるはず。また、地域の産業を支えることで、まちの特徴や文化を守っていききたいですね。

みんなのSDGs

○板橋区で作られている絵本を知り、より身近に感じられるようになりました
○図書館などで絵本の読み聞かせをしています



ゲームのつながりを探してみよう